

震災の影響を乗り越えて香港市場向けの輸出を実現 (有限会社 沢菊)

会社概要(平成24年10月現在)

- 所在地:岩手県久慈市大川目町2-4-2
- 代表者:宮沢 陽一
- 資本金:600万円
- 売上高:非公表
- 従業員数:22名
- URL: <http://www.sawagiku.jp/>

①事業概要

<和菓子等製造・販売>

岩手県東北部の太平洋岸に面し、北限の海女の町また国内最大のコハクの採掘産地として知られる久慈市。沢菊はこの地で現宮沢社長の祖父である菊松氏が昭和5年に創業、以来80年以上に渡って地域の文化、物語に根付いたお菓子作りが続けられてきた。他にないオリジナルなお菓子を作りたいとの宮沢社長の思いから、ユニークなネーミングで話題となった「ぶすのこぶ」が生まれる。

現在の売れ筋商品NO1は、“久慈地方の蛍の群舞”をイメージした「山ぶどうチーズケーキ」。2種のフレッシュチーズと最高級生クリームを使用してホイップクリームのような極上の味わいのクリームに、ビタミン、ミネラルを多く含む地元産の山ぶどうを搾った果汁を配し、その絶妙な味のハーモニーが人気を呼んでいる。

②海外展開概要

<香港への輸出>

沢菊はこれまで商社を通じてシンガポールでの催事に出席販売を行ってきたが、平成23年に入ってからジェトロのイベントを活用しての海外市場開拓を本格化させた。

③取組の重点(活用した支援策を含む)

平成23年1月、盛岡にバイヤー5社を招へいで開催された「香港・韓国食品輸出商談会」および併催の「香港食品輸出セミナー」に参加。複数の商談の中から香港の有力バイヤーとの交渉が継続した結果、香港での催事向けに100万円相当の出荷が実現した。当初3月に予定された催事は東日本大震災で延期されたものの、6月に無事開催された。これに合わせ香港を訪問した同社は、ジェトロ香港のブリーフィングサービスを活用し現地事情の把握を行うと共に、香港の有力バイヤー2社と継続して商談を行った。

更に同社は、平成23年10月ジェトロが香港での商機拡大を目的として実施した「岩手食品輸出商談ミッション」にも参加、香港バイヤー10社と商談を実施し複数の成約見込みを得て現在も交渉が続いている。今回も商談支援として、ジェトロ香港主催の市場視察ツアーや商談前のブリーフィングサービスが提供された。沢菊は県内菓子業界のリーディングカンパニーとしてその取り組みは各方面で注目されており、震災をはね返して海外に挑戦する姿はNHK テレビ番組でも紹介された。

④今後の事業展開について

同社は今後も香港の他ルート開発、また香港以外の市場へのアクセスに意欲を燃やしており、製品の賞味期限改良などを進めている。



(平成24年10月現在)

データ出所:日本貿易振興機構